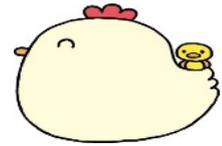




## 高田病後児保育所「ぬくみ」 掲示版



【6月のテーマ】

子どもの夏風邪

高田病後児保育所スタッフより

紫陽花が綺麗に色づき始める季節となりました。夏風邪とは、プール熱(咽頭結膜熱)、ヘルパンギーナ、手足口病といった、梅雨から夏にかけて子どもたちがかかりやすい病気の総称です。これらは、夏の「夏の三大感染症」と言われています。それぞれについて見ていきましょう。

☆プール熱(咽頭結膜熱) 「アデノウイルス」が原因で感染

【症状】

①38～39℃の高熱(4～5日続く) ②のどの痛み ③目やに、涙が出る、目のかゆみ、充血  
※結膜炎の症状が出るのが特徴的。安静にて4～5日で回復するが、まれに中耳炎、副鼻腔炎や肺炎を起こすことがある。嘔吐や下痢を伴うこともある。

※学校保健安全法により、出席停止期間は「主要症状が消失した後2日経過するまで」である。

☆ヘルパンギーナ ウイルスの型がいくつかあるため、何度もかかることがある

【症状】

①38～39℃の高熱 ②のどの痛み ③口の中に水ぶくれのような発疹

※口の中の発疹がつぶれると強い痛みを感じ、唾液や食事を飲み込むのが困難に。脱水に注意。

☆手足口病 原因となるウイルスの種類が多く、何度もかかることがある

【症状】

①手・足・口の中に水ぶくれのような発疹、痛みあり ②微熱(37～38℃)がでることもある

※口の中の発疹がつぶれて口内炎になり、食事や水分がとれなくなる場合がある。脱水に注意。

☀夏風邪予防☀

これらの夏風邪には予防接種がないため、予防するには基本的な感染対策が大切です。

①こまめに手洗いする ②規則正しい生活をおくる ③食器やタオルを分ける

😊夏風邪のケア😊

1週間ほどで回復することがほとんどです。ホームケアを行いながら様子を見ましょう。

①水分をしっかりとらせる ②安静にさせる ③食べられるものを食べさせる

④寒気がある時は保温を、ない時は身体を拭く、水分摂取などで体温を下げる

⑤入浴に関しては、体温が38℃以下で、元気な様子であれば、湯船に浸かっても良い

🏠症状が改善しない場合は受診を！🏠

夏風邪は自然に軽快することがほとんどですが、まれに重症化する可能性もあります。水分がとれずおしっこが出ない、顔色が悪くぐったりしている、発熱が5日以上続いているような場合は早めに受診しましょう。特に身体の不調をうまく伝えられない乳幼児は、普段と違った様子がみられたら受診をおすすめします。

